



布絵本ボランティア
みずあおい代表
せどはらのりこ
後原典子さん

味わいと温かみがある布絵本。 まずは、図書館でふれてみて—



みずあおいの初作品
「いないいないばあ」

昨年5月に図書館で行われた布絵本講座をきっかけに布の絵本ボランティア「みずあおい」を結成しました。12人のメンバーで、子どもたちの笑顔を思い浮かべながらひと針ひと針縫っています。

布の絵本とは、マジックテープやスナップボタン、ファスナーなどを使って、読む人が自分でお話を作りながら、「はずす」「あわせる」「とめる」などといった動きを組み込んで、自由に遊び、動かし、学べる絵本です。味わいと温かみがあり、色合いや絵柄はもちろん、手触り、風合いなど触れても楽しめます。

毎週木曜日に集まり、この1年で作りあげたのは全部で14作品。すべて図書館で貸し出しています。絵本作りで気を付けていることは、子どもたちが自由に安全に楽しめて丈夫であること。カットから全部手作りなので、制作キットを使った作品でも、縫い目や目の位置など個性があつて、出来上がった作品は、なぜか作った人に似ていますね。

前回の図書館のイベントでは、壁に張った大きな布のリンゴの木に子どもたちと一緒に作った



会話を楽しみながら、和気あいあいと布絵本を制作する布絵本ボランティア「みずあおい」の皆さん

布のリンゴを実らせて楽しみました。まずは、おはなし会やイベントで体験して欲しいですね。

今は、群馬県桐生市で開催される手作り布の絵本全国コンクールに出展するため、制作活動に励んでいます。このコンクールの出展作品は、すべて大震災の被災地に寄贈されます。

私たち「みずあおい」では一緒に制作する仲間を募集中です。メンバーはこのボランティア活動を通じて知り合った人がほとんどで、その新たなつながりを喜んでいます。あなたも布絵本と一緒に作ってみませんか？

絵本はいつでも 手の届くところに

おはなし会には、ほとんど毎週参加しています。言葉の発達とか、絵本から学ぶことがたくさんあると思うんです。最近は、いつでも子どもの手の届くところに絵本を置いています。布絵本は、子どもがひっぱっても破れないから安心ですね。



表紙にも登場していただいた上村裕子さん(古閑)と虎白くん(1歳6か月)

ねんねの前に 読んでいます

利 用 者 の 声

上の子が絵本が大好きで、返却期限の2週間に1回、図書館に通っています。絵本は、お昼寝の前や夜のねんねの前に読んでいます。しかけのある知育絵本もよく利用し、今は絵本を使って、ボタンはずしやオムツはずしに挑戦中です。



ながのくみこ
永野久美子さん(馬水北)と由唯ちゃん(右・2歳8か月)・汰樹くん(左・5か月)